

- 1 力込めつゝ春のパンテイライン
- 2 啓蟄やまづ乾杯のビールから
- 3 蝶円きビルに沿ひつゝ赤黄男の忌
- 4 春昼のこの指とまれ誰でもよい
- 5 抱けば少年無言となりぬ康成忌
- 6 タイル画にアドリアの海暮れかぬる
- 7 次々と坊主風船もて飛翔
- 8 落椿命ひとつを持って余す
- 9 こと終へて男娼夢を語る春
- 10 あたたかやパパのお嫁になりたしと
- 11 のどかなりねこがねずみを追ふはなし
- 12 辛夷咲く里よばあばの糸車
- 13 椿落ち地の美しくなりにけり
- 14 春惜しむ「I LOVE YOU」といふ歌に
- 15 忌野忌悪い予感もしやしねえ
- 16 縫ひ閉ぢられぬ夢がありけり修司の忌
- 17 草原のやうにシャワーのあとの部屋
- 18 舞姫の素足に痣のありにけり
- 19 朱夏そしてわが詩に恋の多きこと
- 20 カルメンのやうにゆらめく金魚かな
- 21 助さんに格さんがゐて水羊羹
- 22 神様のやうに牛馬を冷やしけり
- 23 あまたなる麦酒の果ての校歌かな
- 24 薔薇に掛けたる一枚の更紗かな
- 25 手をのべて夕立に乳房ありしころ
- 26 麦酒呑むためだけそれだけのわたし
- 27 海霧やがて命となりて死となりて
- 28 長靴は井戸のほとりに髪洗ふ
- 29 茄子焼けば真実父は一人きり
- 30 人造の胸の谷間を夏めきぬ
- 31 よく当たる宝くじ売場より蠅
- 32 裸にて大路を踊り来る群衆
- 33 梅雨いよいよ激しヴァギナ・デンタータ
- 34 桜桃忌薄倅にして不美人な
- 35 紫陽花は揺れて何をか絶叫す
- 36 生ききるはずもなきわたしが蟻の中
- 37 夢に金魚燃えつゝわれを睨みけり
- 38 蚊は死してコップの海を漂流す
- 39 いちじくや化粧厚くて貧しくて
- 40 お花畑生命線は手首越え
- 41 栄養の行きわたりたる毛虫かな
- 42 夏蝶はほどけぬやうに舞ひ上がる
- 43 孔子老子夏めく午後を寝転がる
- 44 母ちやんのやうなトマトをもぎにけり
- 45 蜥蜴の尾びよこびよこ動くバカボン忌
- 46 知らぬ子の親の名知らず炎天下
- 47 七月の炒飯大盛苾まで熱し
- 48 遠泳の一人はすぐに立ちにけり
- 49 溽暑の缶よりだらだらなるペンキ
- 50 列なして蟻を見つむる男たち

- 51 炎暑の太陽世界完結して真白  
52 子は跣足アベベも跣足人は死ぬ  
53 レイバウなまぬるしましろしセイシンカ  
54 晩夏光ニユルンベルクに木槌の音  
55 デイスイズアペン秋立つ日なりけり  
56 檸檬一つ神を信ずる者目掛け  
57 鯊釣の家族の横にゐる女  
58 トイレ磨いて台風お迎へ中  
59 ペンキまみれなる残暑の一軒家  
60 終戦忌傷あまたなる魚の口  
61 ゴルゴダの丘を転がりゆく西瓜  
62 今迄は西瓜と呼んでをりにけり  
63 西瓜からグリコ・森永事件まで  
64 西瓜転がりてニッポンの親父さん  
65 また誰か西瓜と話しはじめけり  
66 松茸を入れ忘れたる松茸飯  
67 死に場所を荒野と決むる捨案山子  
68 こほろぎ鳴け鳴け此岸はつまらなかつた  
69 流星や百年経つたら帰つておいで  
70 満月や人形に刺す釘を選ぶ  
71 夜長のピエロに今もレーニン伝  
72 鳩吹や森は突然野に開く  
73 くれなゐの月なればわれ虎を産む  
74 霜降の廊下に女身立たせけり  
75 ゆるやかに道岐れゆく冬日和
- 76 火事消えて水むらさきのまゝ流る  
77 外套の襟立て直す帰郷かな  
78 短日やハグも刺殺もできる距離  
79 次の人へマスクを渡す日となりぬ  
80 落涙とならず綿虫となりけり  
81 ショールまとひ知らぬ男に逢ふ時間  
82 頬被電車乗らずに睨みくる  
83 鉄骨錯綜大地に冬の雨  
84 狼として殺されし者の墓  
85 病室を誰も動かぬ寒さかな  
86 数へ日の日誌の端が折れてゐる  
87 休職にボーナスのある今世紀  
88 竹馬の叔父が全く動かざる  
89 サンタクローズ結婚指輪してをりぬ  
90 初夢は狂気の沙汰となりけり  
91 丑三つの雪女より一一〇番  
92 メイド・イン・近所のおばちゃんおでん食ふ  
93 スエターの黒き建築家の卵  
94 ねんねこに子もなく話しかけてゐる  
95 寒の夜の翼たたみて自死の人  
96 葉牡丹がやがて胎児となる日まで  
97 氷瀑や数千兆の注射針  
98 人間がこんなにもゐる日向ぼこ  
99 生くる子が首吊る子へとなりし冬  
100 毛布一枚わたしは自由である